

## I. 中心市街地全体に係る評価

○計画期間：平成30年4月～令和5年3月（5年0月）

### 1. 計画期間終了後の市街地の概況

本市は平成30年3月23日に3期目となる中心市街地活性化基本計画の認定を受け、令和5年3月までの5年間にわたり『県都にふさわしい中心市街地の魅力が伸展するまちづくり』～多様な「もの・ひと・しかけ」で人々を惹きつけるまち～をテーマとして掲げ、「①幅広い世代の人で賑わう魅力あるまちなか商業拠点の形成」「②多くの人々が行き交い、多様なサービスが受けられる空間の創出」「③新たな出会いや都市文化を育む個性の創出」の3つを基本的な方針に設定し、これまでソフト・ハード両面から各事業に取り組んできた。

計画期間中には「大分市中心市街地祝祭広場整備事業」や「旧大分フォーラスビル建替事業」、「交通安全事業国道197号（昭和通り工区）」等のハード事業が予定通り完了するとともに、平成30年度には、「第33回国民文化祭・おおいた2018、第18回全国障害者芸術・文化祭おおいた大会」が県下各地で開催され、令和元年度には「ラグビーワールドカップ2019™日本大会」の試合が本市でも開催されたことから、これまで経験したことのない中心市街地の賑わいを創出・体感できた。

計画に掲げた事業は着実に進めてきたところであるが、令和2年春以降、新型コロナウイルス感染症の拡大という外的要因が発生したことにより、居住者及び来街者の行動が変容したと推察され、計画で掲げていた全ての目標指標について目標の達成は困難となった。加えて、少子高齢化への対応、人々のライフスタイルの変化、頻発化・激甚化する自然災害への対応など、中心市街地を取り巻く状況は多様性、不確実性が増している。

こうした状況を踏まえ、中心市街地においては、単に商業機能を核とした活性化を目指すのではなく、多様な人々の出会い・交流を通じたイノベーションの創出や居住者の豊かな生活を実現し、まちの魅力の向上が市内外の多様な人材、関係人口を惹きつける好循環が確立された場所であることが求められている。

このためには、多種多様な人々のニーズに対応できる様々な業種の展開や、安全で居心地がよく歩きたくなるまちなかを目指した環境整備、子育て環境・地域コミュニティ機能の充実等により、住み、働く場としての中心市街地の多様な魅力を高めていくことが重要であり、今後も行政、商店街、大型店、まちづくり関係者等が連携して県都にふさわしい中心市街地の魅力が伸展するまちづくりを目指していく必要がある。

**【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】**

中心市街地の地価は年々上昇傾向である。居住人口は令和3年度初めて減少に転じたが、令和4年度に再び増加した。

(1) 居住人口

(基準日：毎年度12月末日)

(中心市街地 区域)	平成29年度 (計画前年度)	平成30年度 (1年目)	令和元年度 (2年目)	令和2年度 (3年目)	令和3年度 (4年目)	令和4年度 (5年目)
人口	20,281	20,752	21,103	21,179	21,048	21,186
人口増減数	153	471	351	76	△131	138

(2) 中心市街地小売業年間商品販売額

(単位：億円)

	平成29年度 (計画前年度)	平成30年度 (1年目)	令和元年度 (2年目)	令和2年度 (3年目)	令和3年度 (4年目)	令和4年度 (5年目)
販売額	863	853	843	712	754	

※各年1月～12月の合計

(3) 中心市街地の地価(公示地価)の推移

(単位：千円/㎡)

区分	標準地番号	住所	備考	平成 29年 度(計 画前 年度)	平成 30年 度(1年 目)	令和元 年度(2 年目)	令和2 年度(3 年目)	令和3 年度(4 年目)	令和4 年度(5 年目)
①	大分5-1	中央町1-3-23	商業地	491	521	550	580	589	595
②	大分5-2	都町2-1-6	商業地	320	330	343	356	359	363
③	大分5-4	府内町1-4-11	商業地	198	199	203	210	210	212
④	大分5-6	金池町3-1-68	商業地	153	158	164	171	175	183
⑤	大分5-8	大道町3-2-26 (H30より 3-3-4に地点変 更)	商業地	116	123	126	130	131	134
⑥	大分5-19	末広町2-1-13	商業地	145	149	154	160	161	164
⑦	大分5-20	大手町1-1-8	商業地	146	147	150	153	155	159
⑧	大分5-27	中央町3-1-2	商業地	248	256	265	276	280	287
⑨	大分10	金池南 1-14-32	住宅	147	150	153	155	155	159

(資料：国土交通省地価公示)

**2. 計画した事業等は予定どおり進捗・完了したか。また、中心市街地の活性化は図られたか。(個別指標ごとではなく中心市街地の状況を総合的に判断)**

**【進捗・完了状況】**

- ①概ね予定通り進捗・完了した      ②予定通り進捗・完了しなかった

**【活性化状況】**

- ①活性化した  
②若干活性化した  
③計画策定時と変化なし  
④計画策定時より悪化

**3. 進捗状況及び活性化状況の詳細とその理由(2.における選択肢の理由)**

基本計画に位置付けていた 67 事業中、大分市中心市街地祝祭広場整備事業や交通安全事業 国道 197 号(昭和通り工区)、旧大分フォーラスビル建替事業などハード整備事業を含む 12 事業が完了した。また、大分市中央通り歩行者天国、アートを活かしたまちづくり事業などソフト事業を含む 52 事業が着手または実施中である。そのため、事業の進捗・完了状況については「概ね順調に進捗・完了した」といえる。

一方で、計画に掲げられた目標指標である「目標①空き店舗率」、「目標②中央町・府内町間を往来する歩行者通行量」、「目標③中心市街地循環バス「大分きゃんバス」年間利用者数」、「目標④主要文化交流施設年間利用者数」においては、令和 2 年春に発生した新型コロナウイルス感染症の感染拡大という外的要因の影響もあり、全ての目標指標において最新値が目標値を下回る結果となった。

しかしながら、本市においては、感染症対策として、大分駅府内中央口への抗原検査センターの設置やイベント開催時の市独自のワクチン・検査チェックシステムの導入、感染症対策にかかる各種経費の補助、感染症対策事例集の発刊など、創意工夫を施しながら、賑わいと安全・安心の両立が図られるよう努めてきた。さらに、事業者に対しては、家賃支援や上下水道料金の免除、融資を受ける際の利子補給といった事業継続支援を行うとともに、販路開拓や業務効率化の取組に対しても補助率や予算額を引き上げるなど閉店抑止策を講じた結果、新型コロナウイルス感染症が拡大した令和 2 年度に比べて、令和 3 年度及び令和 4 年度は目標指標に対する実績値が改善傾向となっている。

また、中心市街地の居住人口は計画期間開始前年度の 20,281 人から年々増加し、令和 3 年に減少に転じたものの、計画最終年度である令和 4 年に再び増加し、地価の動向についても年々上昇傾向となっている。さらに、中心市街地における「まちなか滞留時間」の調査において、若者を中心に滞在時間が回復傾向にあることなどから、目標指標における最新値は目標値に届かなかったものの、中心市街地の活性化状況について「計画策定時と変化なし」と判断した。

#### 4. 中心市街地活性化基本計画の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

##### 【活性化状況】

- ①活性化した
- ②若干活性化した
- ③計画策定時と変化なし
- ④計画策定時より悪化

##### 【詳細を記載】

大分市中心市街地活性化協議会としては、行政、関係団体等と協議、連携しながら中心市街地の活性化を推進した結果、本計画に位置付ける事業は着実に実施されたと考える。特に平成30年度の「第33回国民文化祭・おおいた2018、第18回全国障害者芸術・文化祭おおいた大会」の開催、令和元年度の「ラグビーワールドカップ2019™日本大会」が本市でも開催されたことによる中心市街地の賑わいは過去経験したことのない規模であった。

一方で、令和2年度に、新型コロナウイルス感染症拡大により急激に賑わいが喪失し、市街地においても各商店街が甚大な被害を受けた。

しかし、家賃支援制度や販路開拓、出店補助等の手厚い支援措置が国、県、市からタイムリーに講じられた。また、「大分市中央通り歩行者天国」など各種イベントや新規出店に対するフォローアップへの注力により、コロナ禍であったが、数値以上に市街地は空き店舗率を抑え、回遊性が向上するなど、一定の伸展を図ることができた。

特に、「大分市中央通り歩行者天国」では、平均約2.2万人の来場があり、中心市街地活性化へ大きな影響を与えた。商店街においては、「まちなか出店支援事業」により、令和3年度16件、令和4年度14件と空き店舗率改善に大きな成果をあげた。

また、そのような状況の中、祝祭の広場付近や末広町周辺の再開発が進捗している。祝祭の広場で実施しているイベント等の影響もあり、属性調査で特に10代～20代の滞留時間の伸び率が、コロナ禍であった令和2年度から令和4年度にかけて伸長していることも分かった。

さらに、中心市街地周辺エリアにおいて、鉄道残存敷の整備事業が進んでいるとともに、本市と大分空港を海上で結ぶ超高速船ホーバークラフトの旅客ターミナルが建設される予定であり、中心市街地と周辺の市街地は密接に関連しているため、今後も波及効果を期待したい。当協議会としては、引き続き、まちなかの賑わいの維持拡大に、官民一体となって取り組む所存である。

## 5. 市民意識の変化

### 【活性化状況】

- ①活性化した
- ②若干活性化した
- ③計画策定時と変化なし
- ④計画策定時より悪化

### 【詳細を記載】

(1) 大分市中心市街地活性化に関する市民アンケート

調査期間：令和4年8月17日から9月2日

調査方法：郵送による配布・回収

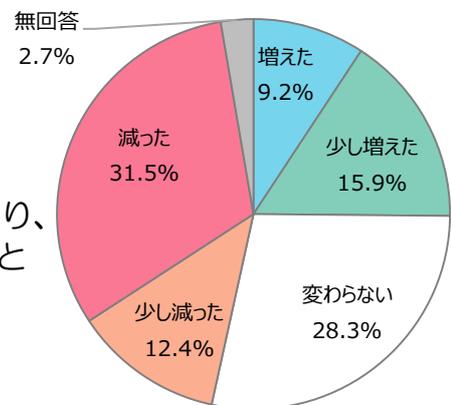
調査範囲：大分市

調査数：2,000名の調査対象に対し672名の有効回答数（回収率33.6%）

■ 中心市街地への来外頻度の変化

#### ① 中心市街地への来街頻度の変化

5年前と比べ、中心市街地へ行く頻度が  
増えたかどうか聞いてみると、  
「増えた」「少し増えた」の合計が25.1%、  
「減った」「少し減った」の合計が43.9%となり、  
全体では、以前より来街頻度が低下していること  
がうかがえる。

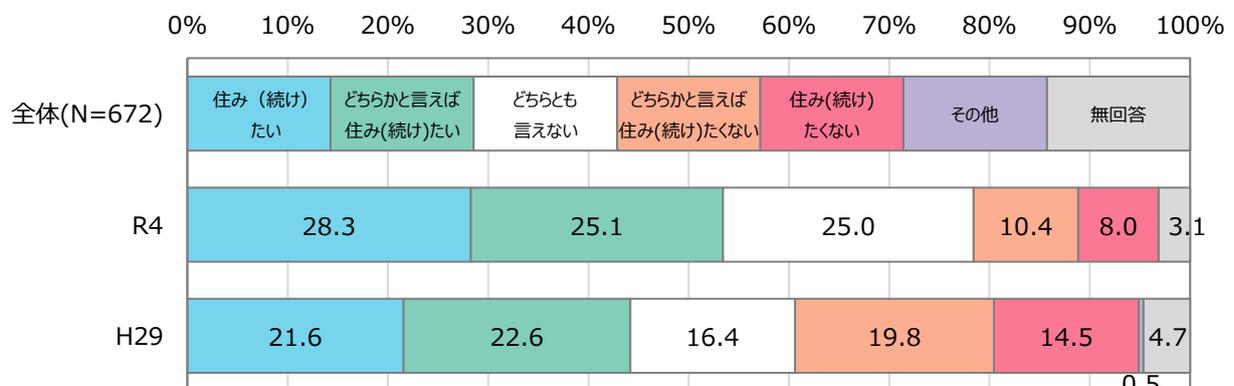


全体(N=672)

#### ② 中心市街地への居住意向

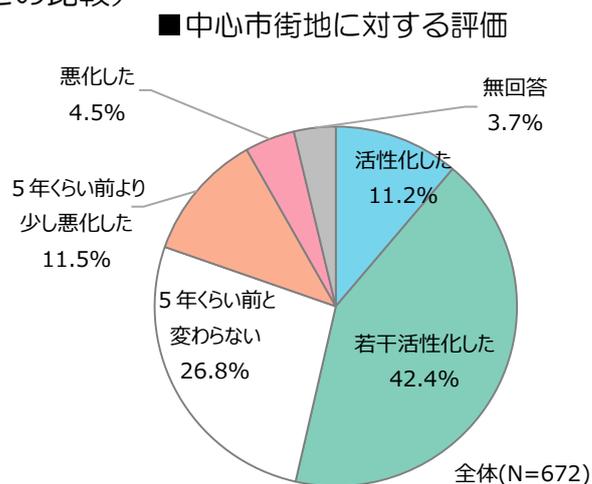
平成29年の市民アンケート調査と比較すると、「住み（続け）たい」「どちらかと言えば住み（続け）たい」が9.2ポイント向上し、「どちらかと言えば住み（続け）たくない」「住み（続け）たくない」が15.9ポイント低下しており、中心市街地への居住意向の高まりがうかがえる。

■ 中心市街地への居住意向



### ③中心市街地に対する評価（概ね5年前との比較）

5年前と比べ、中心市街地が良くなったかどうか聞いてみると、「活性化した」「若干活性化した」の合計が53.6%、「5年くらい前より少し悪化した」「悪化した」の合計が16.0%となり、全体では、5年前と比べ活性化していると評価されていることがうかがえる。



令和4年8月に実施した「大分市中心市街地活性化に関するアンケート」の調査において、中心市街地への来街頻度については低下の傾向がみられるものの、居住意向は高まっており、中心市街地が5年前と比べて「活性化した」、「若干活性化した」と回答した割合が5割を超えることから、市民意識の変化については「若干活性化した」と考える。

## 6. 今後の取組

計画に掲げられた事業の推進によって、居住人口の増加や地価の上昇に繋がっており、中心市街地の活性化に向けた着実な進展がみられているものの、本計画期間中において、新型コロナウイルス感染症の拡大という外的要因が発生したことにより、居住者及び来街者の行動が変容したと推察され、全ての目標指標において目標値を達成できていない状況である。加えて、少子高齢化への対応、人々のライフスタイルの変化、頻発化・激甚化する自然災害への対応など、中心市街地を取り巻く状況は多様性、不確実性が増している。

そこで今後は、これまでの活性化に向けた取組を止めることなく、中心市街地が有する産業、人的資源を活かしつつ、住む人・訪れる人にとって、快適で洗練された環境の中で日々の幸せを感じられるよう、中心市街地の魅力をさらに高めるまちづくりを目指すことが重要である。

そのため、新たに策定した計画では、「伝統と革新の調和によるまちなか商業の活性化」「魅力的な都市空間の創出による回遊性の向上」「住みたくなるまちなかの環境整備」の3つを方針に掲げ、行政、商店街、大型店、まちづくり関係者等が連携して各種事業に着実に取り組むことにより、計画のテーマである『『県都にふさわしい中心市街地の魅力が伸展するまちづくり』～住む人・訪れる人が幸せを感じる豊かで洗練されたまち～』を推進していく。

## II. 目標ごとのフォローアップ結果

### 1. 各目標の達成状況

目標	目標指標	基準値	目標値	基準値から目標値までの幅の8割ライン	最新値		達成状況
					(数値)	(年月)	
伝統と革新の調和によるまちなか商業の活性化	空き店舗率	11.1% (H28)	4.6% (R4)	5.9%	10.7%	R5.3	B2
魅力的な都市空間の創出による回遊性の向上	中央町・府内町間を往来する歩行者通行量(土日計)	32,832 人 (H28)	37,000 人 (R4)	36,166 人	26,349 人	R4.11	C
	中心市街地循環バス「大分きゃんバス」年間利用者数	60,931 人 (H28)	65,000 人 (R4)	64,186 人	53,023 人	R4	C
多様な都市ストックを活かした交流機会の拡大	主要文化交流施設年間利用者数	3,902,363 人 (H28)	4,180,000 人 (R4)	4,124,473 人	2,358,270 人	R4	C

#### <達成状況の分類>

A：目標達成、B1：概ね目標達成（基準値から目標値までの幅の8割ラインを超えている）、B2：基準値より改善（基準値から目標値までの幅の8割ラインには及ばない）、C：基準値に及ばない

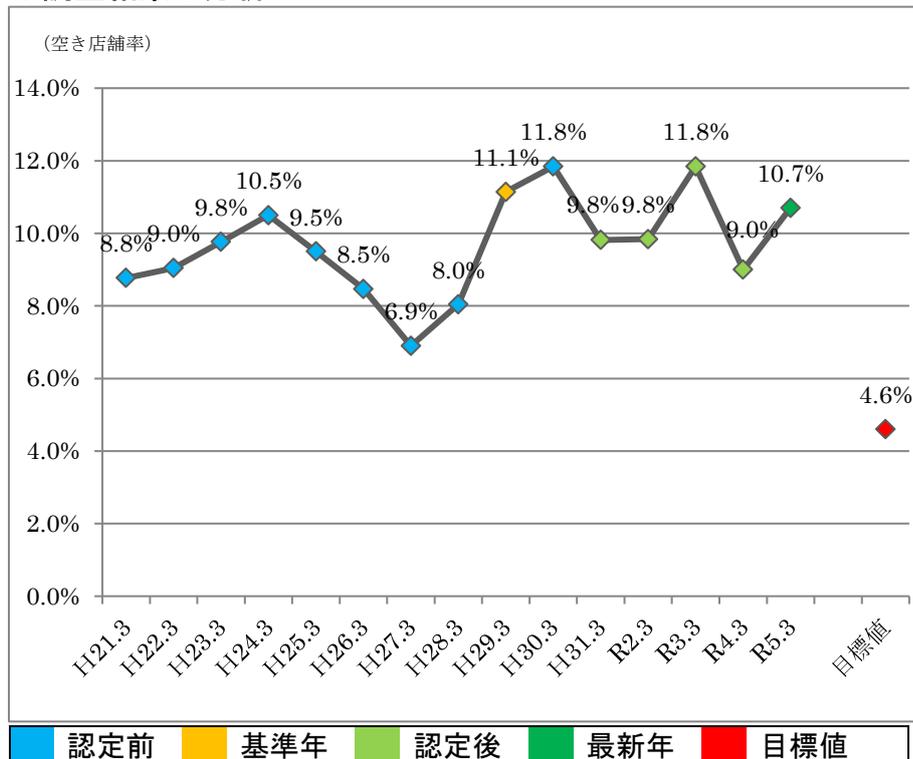
※上記について、関連する事業等が予定どおり進捗・完了しなかった場合は、小文字にして下さい。（注：小文字のa、b1、b2、cは下線を引いて下さい）

## 2. 目標指標ごとのフォローアップ結果

### (1) 「空き店舗率」(目標の達成状況【B2】)

※目標設定の考え方認定基本計画 P. 64～P. 66 参照

#### ●調査結果と分析



年	(単位)
H28	11.1% (基準年値)
H29	11.8%
H30	9.8%
R1	9.8%
R2	11.8%
R3	9.0%
R4	10.7%
R4	4.6% (目標値)

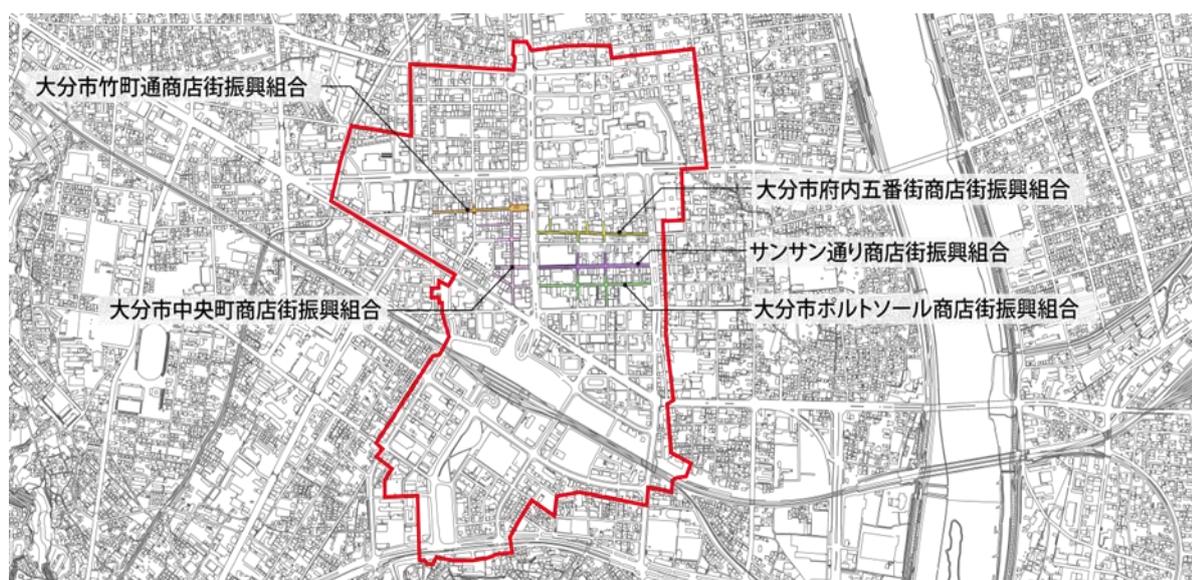
※調査方法： 職員の目視による

※調査月： 毎年3月

※調査主体： 大分市

※調査対象： 中心市街地における5商店街組合区域内の建物1階部分

※調査地点



(単位：%)

	平成 29 年度 (計画前年度)	平成 30 年度 (1 年目)	令和元年度 (2 年目)	令和 2 年度 (3 年目)	令和 3 年度 (4 年目)	令和 4 年度 (5 年目)
大分市竹町通商店街振興組合	14.3	13.0	16.0	17.3	10.5	14.5
大分市中央町商店街振興組合	13.0	7.5	8.3	9.3	8.4	7.4
大分市府内五番街商店街振興組合	14.3	11.4	10.0	11.4	8.6	11.4
大分市ポルトソール商店街振興組合	9.3	9.6	9.6	13.7	10.8	12.9
サンサン通り商店街振興組合	6.0	8.0	4.0	6.1	6.0	8.2

### 〈分析内容〉

目標指標の実績値の推移としては、目標値の 4.6%を達成できなかったものの、基準値の 11.1%より改善しており、空き店舗率の改善が若干図られた。

商店街別にみると、「大分市竹町通商店街振興組合」、「大分市ポルトソール商店街振興組合」、「サンサン通り商店街振興組合」は計画策定前と比較し、悪化となったが、「大分市中央町商店街振興組合」は大幅な改善が見られ、「大分市府内五番街商店街振興組合」も改善傾向が見られる。

空き店舗率の改善に向けた各事業については、概ね予定通りに進捗し、新規出店と閉店抑制の両面から施策を実施することで空き店舗率の悪化に歯止めをかけ、商業機能の回復に一定の効果が発現していると分析される。

### ●目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況及び事業効果

#### ① 小規模事業者競争力強化支援事業（大分市）

事業実施期間	平成 29 年度～【実施中】
事業概要	小規模事業者の地道な販路開拓や業務効率化の取組、販路開拓と業務効率化を一体的に行う取組に要する経費を補助する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業目標値 まちなか出店事業の支援店舗における閉店抑制数 15 店舗／5 年</li> <li>・最新値（積算根拠による推計値） まちなか出店事業の支援店舗における閉店抑制数 15 店舗／5 年 【目標達成】</li> </ul>
達成した（出来なかった）理由	本事業は計画期間中において着実に実施し、令和 2 年度から令和 3 年度にかけては、新型コロナウイルス感染症による経済的な影響を鑑み、予算や補助率等を拡充して実施した。個店の魅力向上と競争力強化が図られ、閉店抑止につながったと分析される。
計画終了後の状況及び事業効果	<p>本事業を活用した個店が販促 PR や店舗改装などの販路開拓につながる取組を行ったことにより、個店の魅力向上と競争力強化が図られている。</p> <p>本事業を活用した事業者へのアンケート調査では、売上が増加したと回答している事業者は、毎年度約 5 割に上り、事業の効果が発現していると考えられる。</p>
事業の今後について	引き続き事業に取り組み、既存店舗の閉店抑制につなげていく。

②. まちなか出店支援事業（大分市）

事業実施期間	平成 25 年度～【実施中】
事業概要	中心市街地で事業意欲のある商業者や起業家に対して、商店街等と連携を図りながら空き店舗への出店に関わる経費の一部を補助する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（平成 30 年度～）
事業目標値・最新値及び達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業目標値 本事業の制度拡充による空き店舗の改善数 15 店舗／5 年</li> <li>・最新値（積算根拠による推計値） 本事業の制度拡充による空き店舗の改善数 2 店舗／5 年 【目標未達成】</li> </ul>
達成した（出来なかった）理由	本事業は出店後のフォローアップを必須としており、本事業を活用し出店した店舗の継続営業の向上につながっていると考えられるが、新型コロナウイルス感染症が拡大した令和 2 年度に出店数が伸び悩んだことが起因し、当初の期待通りには空き店舗数の改善は図られず、目標未達成となったと分析される。
計画終了後の状況及び事業効果	<p>新型コロナウイルス感染症が拡大した令和 2 年度においては、出店数が一時的に減少したものの、本事業を活用し出店した店舗数は、計画期間中で年度平均 12 店舗となった。</p> <p>空き店舗率においても基準値である平成 29 年度より改善しており、事業を着実に実施してきた成果であると考えられるが、新型コロナウイルス感染症の影響により、当初の期待通りに事業効果は発現しなかったと考える。</p>
事業の今後について	引き続き、事業に取り組み、新規出店数の増加につなげる。

③. まちなかりノベーション居住等物件魅力アップ事業（株大分まちなか倶楽部）

事業実施期間	平成 30 年度～【実施中】
事業概要	空き店舗増加の状況打開に向けたまちなかの店舗等の物件の魅力アップと、まちなか居住人口の増加に向け、老朽化した物件のリノベーションを推進する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業目標値 本事業における空き店舗の改善 4 件／5 年</li> <li>・最新値（積算根拠による推計値） 本事業における空き店舗の改善 0 件／5 年 【目標未達成】</li> </ul>
達成した（出来なかった）理由	平成 30 年度に、(株)大分まちなか倶楽部、地元商業者、不動産業者等で組織する「中心市街地エリアマネジメント研究会」を設立し、中心市街地エリアマネジメント研究会による調査・研究は行っているが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、定例学習会の開催回数が減少したこと等から、当初の予定通りには事業が進捗しておらず、既存ストックのリノベーションは実現できていないため、本事業における空き店舗の改善には至らなかったと分析される。
計画終了後の状況及び事業効果	<p>「中心市街地エリアマネジメント研究会」は、対面での実施と、新型コロナウイルスの感染拡大が続いていた時期には学習資料を共有するという 2 つの手法を用い、定例学習会を実施した。</p> <p>調査・研究は行ったものの、既存ストックのリノベーションは実</p>

	現できていないため、本事業における効果は未だ発現していないと考える。
事業の今後について	既存ストックのリノベーションを目指し、引き続き、事業に取り組む。

### ●今後の対策

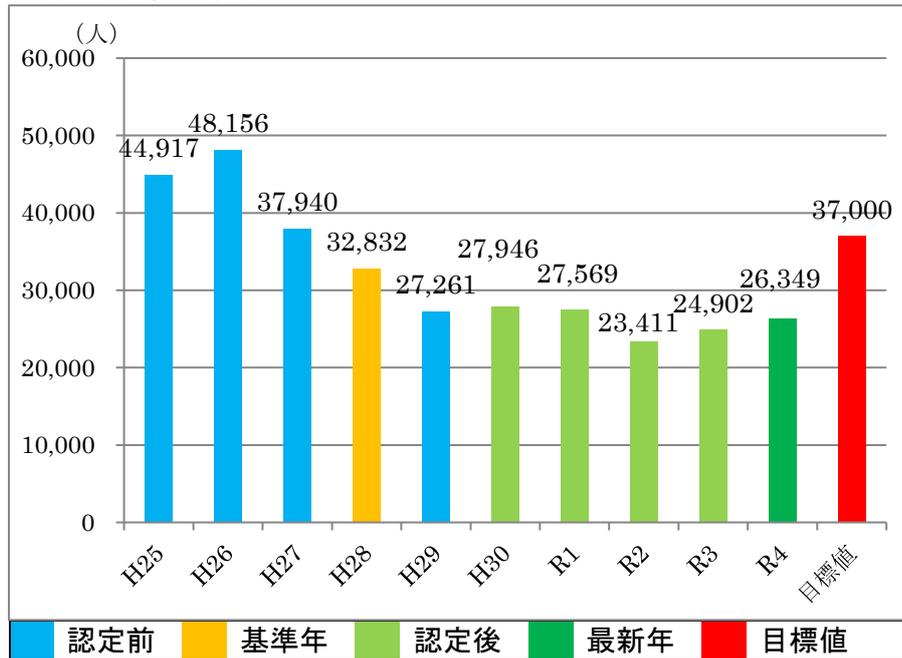
中心市街地の商店街においても新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、目標値の達成には届かなかったものの、事業継続の観点からは、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けた事業者への家賃支援や上下水道料金の免除、利子補給といった支援に加え、販路開拓や業務効率化の取組に対しても手厚い支援を行ったことにより、店舗の閉店抑制の効果をもたらしたとともに、新規出店の観点からは、出店後のフォローアップを必須とする出店補助を実施することにより、新規出店数の増加につながったと考えられ、最新値は基準値を上回った。

今後は、各種関係団体と連携し、事業者への補助制度の周知や新規出店に対するフォローアップへの注力などの既存の取組の継続に加え、若手起業家の育成や職住近接の商業地の形成、ウィズコロナ、アフターコロナを見据えた取組の検討などにより、閉店抑制数と新規出店数の両面から、引き続き空き店舗率の改善を図っていく。

(2) 「中央町・府内町間を往来する歩行者通行量(土日計)」(目標の達成状況【C】)

※目標設定の考え方認定基本計画 P.67~P.71 参照

●調査結果の推移



年	(単位)
H28	32,832人 (基準年値)
H29	27,261人
H30	27,946人
R1	27,569人
R2	23,411人
R3	24,902人
R4	26,349人
R4	37,000人 (目標値)

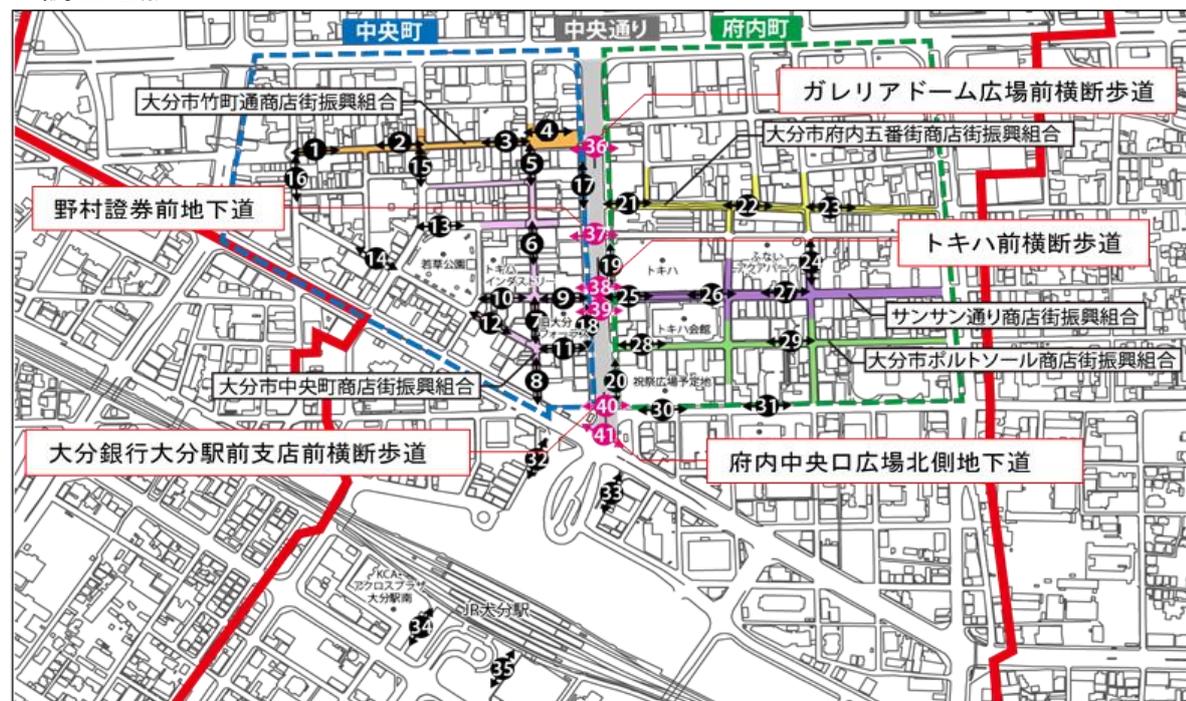
※調査方法：歩行者通行量調査

※調査月：毎年11月

※調査主体：大分市

※調査対象：大分市中心部6地点にて定点調査を実施

※調査地点



(単位：人)

	平成 29 年度 (計画前年度)	平成 30 年度 (1 年目)	令和元年度 (2 年目)	令和 2 年度 (3 年目)	令和 3 年度 (4 年目)	令和 4 年度 (5 年目)
ガレリアドーム広場 前横断歩道	5,302	5,341	5,537	3,970	4,344	5,262
野村証券前地下道	1,258	1,506	1,259	985	928	1,059
トキハ前横断歩道北	11,093	11,042	9,424	8,801	9,365	9,409
トキハ前横断歩道南	5,679	5,773	7,461	5,855	6,305	6,744
大分銀行大分駅前支 店前横断歩道	3,164	3,225	2,885	2,925	2,949	2,905
府内中央口広場北側 地下道	765	1,059	1,003	875	1,011	970

### 〈分析内容〉

目標指標の実績値の推移としては、最新値で 26,349 人と基準値及び目標値を下回る状況にある。

年度別にみると、JR大分駅ビル等大型ハード整備事業による開業効果の収束などの影響により、平成 29 年度に歩行者通行量が大きく減少したものの、その後、平成 30 年度の「第 33 回国民文化祭・おおいた 2018、第 18 回全国障害者芸術・文化祭おおいた大会」の開催、令和元年度の「ラグビーワールドカップ 2019™日本大会」の開催により回復の兆しを見せた。しかし、令和 2 年度に、新型コロナウイルス感染症拡大の影響による緊急事態宣言の発出、不要不急の外出自粛要請などにより再度大きく減少している。

その後、令和 3 年度から令和 4 年度にかけては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けつつも、感染者数が落ち着いた時期に各種イベント事業を実施したこと等により、歩行者通行量の回復につながったと分析される。

### ●目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況及び事業効果

#### ①. 旧大分フォーラスビル建替事業（大分中央ビル(株)、横萬ビル(株)）

事業実施期間	平成 29 年度～令和元年度【済】
事業概要	ビルの老朽化や耐震改修に伴い、旧大分フォーラスビルの建替えを実施し、令和元年 6 月に「大分オーパ」として開業。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業目標値 本事業における歩行者通行量の増加 7,700 人</li> <li>・最新値（積算根拠による推計値） 本事業における歩行者通行量の増加 7,078 人 【目標未達成】</li> </ul>
達成した（出来なかった）理由	<p>平成 29 年 3 月末に解体工事を終了し、平成 30 年 4 月より、立替え工事に着工した後、令和元年 6 月に地上 4 階テナント 47 店の商業施設ビル「大分オーパ」として開業した。</p> <p>本事業は予定通り完了しているものの、空きテナントの増加等から期待通りの歩行者通行量の増加には至らなかったと分析される。</p>
計画終了後の状況及び事業効果	<p>本事業は予定通り完了し、一定の集客に繋がっていると考えますが、空きテナントの増加等から、周辺の歩行者通行量調査地点において、期待通りの歩行者通行量の増加には至っておらず、未だ本事業の事業効果は発現していないと考える。</p>
事業の今後について	<p>本事業は完了したが、今後も商店街や他の大型店、まちづくり関係者等との連携を継続する。</p>

②. 大分市中央通り歩行者天国（大分市中央通り歩行者天国推進委員会）

事業実施期間	平成 28 年度～【実施中】
事業概要	本市のメインストリートである中央通りを歩行者天国とし、魅力あるイベント等を展開することにより、回遊性の向上や滞留時間の延長を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業目標値 歩行者通行量の増加 2,574 人（内数）</li> <li>・最新値（積算根拠による推計値） 歩行者通行量の増加 2,760 人（内数）</li> </ul>
達成した（出来なかった）理由	令和 4 年度は、新型コロナウイルス感染症拡大前と同様のかたちでイベントを実施したことにより、来場者数が感染拡大前の平成 30 年度や令和元年度と同様の水準まで回復したことから、目標値の達成に繋がったと分析される。
計画終了後の状況及び事業効果	<p>令和 2 年度は新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、全日程が中止となったものの、令和 3 年度には感染症対策を講じながら実施し、令和 4 年度は、新型コロナウイルス感染症拡大前と同様のかたちでイベントを実施した。</p> <p>計画期間中において、本事業は平均約 2.2 万人の来場者実績があったことから、歩行者通行量の増加に寄与し、事業効果は十分に発現していると考ええる。</p>
事業の今後について	引き続き、事業に取り組み、歩行者通行量の増加につなげる。

③. 大分市中心市街地祝祭広場整備事業（大分市）

事業実施期間	平成 29 年度～令和元年度【済】
事業概要	大分駅北側に位置する旧大分パルコ跡地を「祝祭の広場」として整備する。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（大分市中心市街地地区））（国土交通省）（平成 30 年～令和元年度）
事業目標値・最新値及び達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業目標値 歩行者通行量の増加 2,574 人（内数）</li> <li>・最新値（積算根拠による推計値） 歩行者通行量の増加 2,760 人（内数）</li> </ul>
達成した（出来なかった）理由	<p>令和元年 9 月に事業は完了した。</p> <p>広場前の調査地点である「大分銀行大分駅前支店前横断歩道」では、令和 3 年度に比べ歩行者通行量が増加したことから、広場で実施したイベント等により、まちなか全体への回遊性を生み、目標値の達成に繋がったと分析される。</p>
計画終了後の状況及び事業効果	<p>中心市街地の活性化に寄与する多様なイベント、パフォーマンス等が開催され、多くの人々で賑わう「集い」の場、快適な滞留空間、休憩空間を用意し、人々に日常的な「憩いの場」、祭礼や式典、公式行事等の開催により、特別な祝祭の場所を演出し、人々の記憶に残る「祝い」の場の 3 つの場面を体感できる場となっている。</p> <p>本事業は歩行者通行量の増加に寄与し、事業効果は十分に発現していると考ええる。</p>
事業の今後について	本事業は完了したが、「祝祭の広場利活用推進事業」により、利用促進のためのさらなる取組を進めていく。

#### ④. 空き店舗率解消による商店街の魅力向上による効果

##### 小規模事業者競争力強化支援事業（大分市）【再掲】

事業実施期間	平成 29 年度～【実施中】
事業概要	小規模事業者の地道な販路開拓や業務効率化の取組、販路開拓と業務効率化を一体的に行う取組に要する経費を補助する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業目標値 歩行者通行量の増加 2,574 人（内数）</li> <li>・最新値（積算根拠による推計値） 歩行者通行量の増加 2,660 人（内数）</li> </ul>
達成した（出来なかった）理由	<p>本事業は計画期間中において着実に実施し、令和 2 年度から令和 3 年度にかけては、新型コロナウイルス感染症による経済的な影響を鑑み、予算や補助率等を拡充して実施した。個店の魅力向上と競争力強化が図られ、閉店抑止につながった。</p> <p>令和 4 年度の空き店舗率は 10.8%と、前年度に比べやや悪化したものの、基準値である平成 29 年度の数値より改善したことから、商店街の魅力向上に繋がり、回遊性の向上に伴う歩行者通行量の増加にも寄与したと分析される。</p>
計画終了後の状況及び事業効果	<p>本事業にて個店の閉店抑制を行うことで、空き店舗率の改善及び商店街の魅力向上に寄与し、結果として歩行者通行量の増加に繋がっている。</p> <p>本事業は歩行者通行量の増加に寄与し、事業効果は十分に発現していると考ええる。</p>
事業の今後について	引き続き、事業に取り組み、空き店舗の抑制を行うことで、商店街の魅力向上に繋げていく。

##### まちなか出店支援事業（大分市）【再掲】

事業実施期間	平成 25 年度～【実施中】
事業概要	中心市街地で事業意欲のある商業者や起業家に対して、商店街等と連携を図りながら空き店舗への出店に関わる経費の一部を補助する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（平成 30 年度～）
事業目標値・最新値及び達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業目標値 歩行者通行量の増加 2,574 人（内数）</li> <li>・最新値（積算根拠による推計値） 歩行者通行量の増加 2,660 人（内数）</li> </ul>
達成した（出来なかった）理由	<p>本事業を活用した令和 4 年度の新規出店数は 14 件と、令和 3 年度の 16 件に引き続き、空き店舗率の改善に大きな成果をあげたことから、商店街の魅力向上に繋がり、回遊性の向上に伴う歩行者通行量の増加に寄与したと分析される。</p>
計画終了後の状況及び事業効果	<p>本事業を活用し出店した店舗数は、計画期間中で年度平均 12 店舗となり、空き店舗率においても基準値である平成 29 年度の数値より改善していることから、商店街の魅力向上に寄与し、結果として歩行者通行量の増加に繋がっている。</p> <p>本事業は歩行者通行量の増加に寄与し、事業効果は十分に発現していると考ええる。</p>
事業の今後について	引き続き、事業に取り組み、空き店舗への出店を促進して、商店街の魅力向上につなげていく。

まちなかりノベーション居住等物件魅力アップ事業（株大分まちなか倶楽部）【再掲】

事業実施期間	平成30年度～【実施中】
事業概要	空き店舗増加の状況打開に向けたまちなかの店舗等の物件の魅力アップと、まちなか居住人口の増加に向け、老朽化した物件のリノベーションを推進する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業目標値 歩行者通行量の増加 2,574人（内数）</li> <li>・最新値（積算根拠による推計値） 歩行者通行量の増加 2,660人（内数）</li> </ul>
達成した（出来なかった）理由	平成30年度に、（株）大分まちなか倶楽部、地元事業者、不動産業者等で組織する「中心市街地エリアマネジメント研究会」を設立し、中心市街地エリアマネジメント研究会による調査・研究は行ったものの、既存ストックのリノベーションは実現できていないため、本事業における空き店舗の改善及び商店街の魅力向上には繋がらず、その結果、歩行者通行量の増加にも寄与しなかったと分析される。
計画終了後の状況及び事業効果	<p>「中心市街地エリアマネジメント研究会」は、対面での実施と、新型コロナウイルスの感染拡大が続いていた時期には学習資料を共有するという2つの手法を用い、定例学習会を実施した。</p> <p>調査・研究は行ったものの、既存ストックのリノベーションは実現できていないため、本事業における効果は未だ発現していないと考える。</p>
事業の今後について	既存ストックのリノベーションを目指し、引き続き、事業に取り組む。

●今後の対策

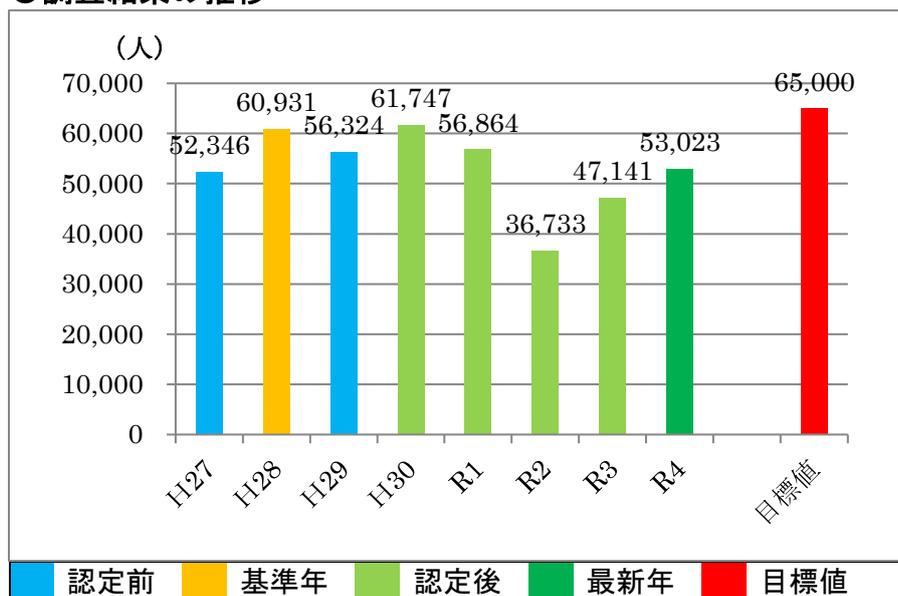
今後は、「大分市中心市街地祝祭広場整備事業」にて整備した祝祭の広場を活用した社会実験やイベントの開催等を検討し、広場の魅力と機能を高めるとともに、「大分市中央通り歩行者天国」等の継続したイベントの開催、各種関係団体と連携し、事業者への補助制度の周知や新規出店に対するフォローアップへの注力などの商業機能回復に向けた取組との連携などにより、来街者の増加を図っていく。

また、ウィズコロナ、アフターコロナを見据えた新たな回遊空間の形成に向けた取組を検討するとともに、シェアリングモビリティ、自転車走行ネットワークの形成等の回遊性向上に向けた取組を強化し、中心市街地全体の回遊性の向上を図っていく。

(3) 「中心市街地循環バス「大分きゃんバス」年間利用者数」(目標の達成状況【C】)

※目標設定の考え方認定基本計画 P. 72～P. 74 参照

●調査結果の推移



年	(単位)
H28	60,931 人 (基準年値)
H29	56,324 人
H30	61,747 人
R1	56,864 人
R2	36,733 人
R3	47,141 人
R4	53,023 人
R4	65,000 人 (目標値)

※調査方法： 月ごとの利用者数を集計

※調査月： 毎年4月～翌3月

※調査主体： 大分市

※調査対象： 中心市街地循環バス「大分きゃんバス」

月	利用者数	月	利用者数
4月	3,619人	10月	5,371人
5月	5,385人	11月	4,327人
6月	3,842人	12月	4,270人
7月	4,607人	1月	4,181人
8月	5,830人	2月	3,744人
9月	3,528人	3月	4,319人
計		53,023人	

〈分析内容〉

目標指標の実績値の推移としては、最新値で53,023人と基準値及び目標値を下回る状況にある。

令和元年度までは、基準値並みの利用者数を維持してきたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、不要不急の外出を控える動向から、令和2年度に利用者数が大きく減少した。その後、感染者数が落ち着いた時期には利用者数が増加し、令和3年度に回復傾向となった。

中心市街地循環バス「大分きゃんバス」年間利用者数の増加に向けた各事業は予定通り進捗・完了しており、令和3年度から令和4年度にかけては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けつつも、大分市中央通り歩行者天国開催時に無料開放デーを実施したこと等から、人流が回復し、利用者数の回復にも繋がったと分析される。

●目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況及び事業効果

①. 中心市街地循環バス運行事業（大分市）

事業実施期間	平成 27 年度～【実施中】
事業概要	大分駅からまちなかを通り、市美術館や大分県立美術館、商店街などを経由する循環バス「大分きゃんバス」を運行する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（平成 30 年度～）
事業目標値・最新値及び達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業目標値 本事業における利用者数の増加 3,292 人</li> <li>・最新値（積算根拠による推計値） 本事業における利用者数の増加 2,509 人 【目標未達成】</li> </ul>
達成した（出来なかった）理由	<p>平成 27 年 6 月から実証運行を始め、運行便数やルートを見直しながら、平成 29 年 10 月から本格運行に移行し、平成 30 年 3 月に車両デザインを変更するとともに、車両のバリアフリー化を行った。</p> <p>令和 4 年度は、大分市中央通り歩行者天国開催時に無料開放デーを実施し、令和 3 年度に比べて利用者数も大幅に増加し、人流の回復に寄与したものの、新型コロナウイルス感染症拡大の影響が長期化したことから、期待通りの利用者数の増加には至らなかったと分析される。</p>
計画終了後の状況及び事業効果	<p>中心市街地にて開催するイベントとの連携の検討や、美術館や大友氏館跡等と連携した循環バスの利活用策の検討などを行っている。</p> <p>本事業は予定通り進捗しており、人流の増加に寄与しているものの、新型コロナウイルス感染症拡大の影響が長期化する中、当初の期待通りの事業効果は発現しなかったと考える。</p>
事業の今後について	引き続き事業に取り組み、美術館来館時にチケット提示で割引適用するなど、美術館等との連携を継続する。また、まちなかの変遷に合わせたルート変更の検討を行うことで、利用者数の増加に取り組む。

②. 旧大分フォーラスビル建替事業（大分中央ビル株、横萬ビル株）【再掲】

事業実施期間	平成 29 年度～令和元年度【済】
事業概要	ビルの老朽化や耐震改修に伴い、旧大分フォーラスビルの建替えを実施し、令和元年年 6 月に「大分オーパ」として開業。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業目標値 本事業における利用者数の増加 472 人</li> <li>・最新値（積算根拠による推計値） 本事業における利用者数の増加 436 人 【目標未達成】</li> </ul>
達成した（出来なかった）理由	<p>平成 29 年 3 月末に解体工事を終了し、平成 30 年 4 月より、立替え工事に着工した後、令和元年 6 月に地上 4 階テナント 47 店の商業施設ビル「大分オーパ」として開業した。</p> <p>本事業は予定通り完了し、目標値の達成に寄与しているものの、空きテナントの増加等から期待通りの利用者数の増加には至らなかったと分析される。</p>
計画終了後の状況及び事業効果	本事業は予定通り完了し、一定の集客に繋がっていると考えますが、空きテナントの増加等から、期待通りの利用者数の増加には至っておらず、未だ本事業の事業効果は完全には発現していないと考える。

事業の今後について

本事業は完了したが、今後も商店街や他の大型店、まちづくり関係者等との連携を継続する。

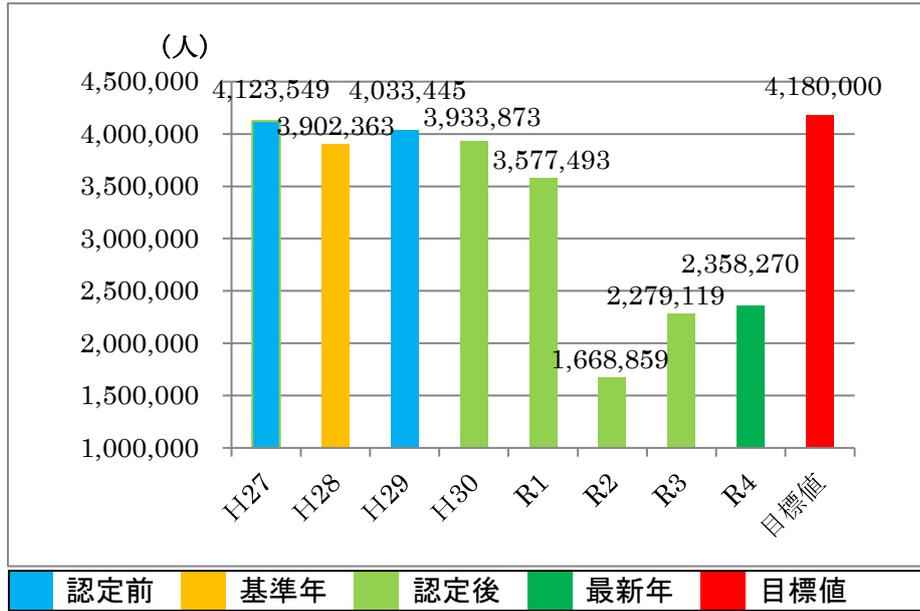
●今後の対策

今後も、中心市街地における状況の変化に応じ、バス運行ルート拡大など、利便性の強化を進めるとともに、まちなかの施設や商店街、中心市街地において開催するイベントとの連携強化など、工夫を施すことにより、利用者の増加を図る。

(4) 「主要文化交流施設年間利用者数」(目標の達成状況【C】)

※目標設定の考え方認定基本計画 P. 75～P. 78 参照

●調査結果の推移



年	(単位)
H28	3,902,363 人 (基準年値)
H29	4,033,445 人
H30	3,933,873 人
R1	3,577,493 人
R2	1,668,859 人
R3	2,279,119 人
R4	2,358,270 人
R4	4,180,000 人 (目標値)

※調査方法：施設ごとの利用者数を集計

※調査月：毎年4月～翌3月

※調査主体：大分市

※調査対象：J:COM ホルトホール大分、コンパルホール、アートプラザ、大分県立美術館、大分市美術館

〈分析内容〉

目標指標の実績値の推移としては、最新値で 2,358,270 人と基準値及び目標値を下回る状況にある。施設別の数値としては、J:COM ホルトホール大分は 1,182,308 人で、コンパルホールは 354,007 人、アートプラザは 105,623 人で、大分県立美術館は 521,529 人、大分市美術館は 194,803 人となり、令和3年度と比べ 79,151 人の増加となった。

平成30年度までは、基準値並みの利用者数を維持してきたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、不要不急の外出を控える動向から、令和元年度以降、利用者数が減少した。その後、感染者数が落ち着いた時期には利用者が増加し、令和3年度に再び回復傾向となった。

令和3年度から令和4年度にかけては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けつつも、感染者数が落ち着いた時期に各種イベント事業を実施したこと等により、人流が回復し、利用者数の回復にも繋がったと分析される。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

1) 県外からの交流人口の増加

- ① 国民文化祭、全国障害者芸術・文化祭（第33回国民文化祭、第18回全国障害者芸術・文化祭大分市実行委員会）

事業実施期間	平成30年度【済】
事業概要	大分県民総参加のお祭りとして誰もが参加できる大会の実現、また、今後の大分の文化芸術のさらなる発展につながる大会を目指す。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし

事業目標値・最新値及び達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業目標値 県外からの交流人口の増加 96,317人(内数)</li> <li>・最新値(積算根拠による推計値) 県外からの交流人口の増加 80,209人(内数)</li> </ul>
達成した(出来なかった)理由	<p>平成30年10月から11月までの51日間にわたって開催され、県下で実施された開・閉会式や県・市町村実行委員会等による164事業、関連事業110事業に237万人以上が参加した。そのうち中心市街地では88事業が開催され、120万人以上が来場し、賑わいが創出された。</p> <p>本事業は予定通り完了しているものの、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響が長期化する中、県境を越えた移動は未だ完全に感染拡大以前の状況に戻っていないことから、目標達成には至らなかったと分析される。</p>
計画終了後の状況及び事業効果	<p>本事業は予定通り完了し、本市や本市実行委員会の主催により調査対象文化交流施設において開催した13事業には、約2万6千人を超える来場者が集まり、施設の認知及び利用者増に寄与したが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、令和2年度以降は県外からの来街者の増加を図ることは難しく、県外からの交流人口の増加という観点においては、本事業の効果が十分に発現しなかったと考える。</p>
事業の今後について	<p>本事業は完了した。</p>

②. 大分市中央通り歩行者天国(大分市中央通り歩行者天国推進委員会)【再掲】

事業実施期間	平成28年度～【実施中】
事業概要	本市のメインストリートである中央通りを歩行者天国とし、魅力あるイベント等を展開することにより、回遊性の向上や滞留時間の延長を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業目標値 県外からの交流人口の増加 96,317人(内数)</li> <li>・最新値(積算根拠による推計値) 県外からの交流人口の増加 80,209人(内数)</li> </ul>
達成した(出来なかった)理由	<p>令和4年度は、新型コロナウイルス感染症拡大前と同様のかたちでイベントを実施したことにより、来場者数が感染拡大前の平成30年度や令和元年度と同様の水準まで回復したものの、県境を越えた移動は未だ完全に感染拡大以前の状況に戻っていないことから、目標達成には至らなかったと分析される。</p>
計画終了後の状況及び事業効果	<p>令和2年度は新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、全日程が中止となったものの、令和3年度には感染症対策を講じながら実施し、令和4年度は、新型コロナウイルス感染症拡大前と同様のかたちでイベントを実施した。</p> <p>計画期間中において、本事業は平均約2.2万人の来場者実績があり、人流の増加には寄与したが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、令和2年度以降は県外からの来街者の増加を図ることは難しく、県外からの交流人口の増加という観点においては、本事業の効果が十分に発現しなかったと考える。</p>
事業の今後について	<p>引き続き、事業に取り組み、各商店街団体と連携し、開催時間やイベントコンテンツの工夫をすることによって街全体に回遊する取組を進める。</p>

③. おおいたワールドフェスタ（大分市）

事業実施期間	平成 27 年度～【実施中】
事業概要	国際関係団体や留学生による国際交流プログラムを実施し、中心市街地の賑わい創出を図るとともに、世界の文化や習慣に触れる機会を提供する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業目標値 県外からの交流人口の増加 96,317 人（内数）</li> <li>・最新値（積算根拠による推計値） 県外からの交流人口の増加 80,209 人（内数）</li> </ul>
達成した（出来なかった）理由	令和 4 年度は来場者数が 2,228 人であり、参加団体は 28 団体に上った。令和 3 年度と比較して来場者数も増加し、人流の回復に寄与したものの、県境を越えた移動は未だ完全に感染拡大以前の状況に戻っていないことから、目標達成には至らなかったと分析される。
計画終了後の状況及び事業効果	<p>令和 2 年度は新型コロナウイルスの感染拡大の影響によりオンラインでの開催となったものの、令和 3 年度には感染症対策を講じながら対面で実施し、令和 4 年度は、新型コロナウイルス感染症拡大前と同様のかたちでイベントを実施した。</p> <p>計画期間中において、人流の増加には寄与したが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、令和 2 年度以降は県外からの来街者の増加を図ることは難しく、県外からの交流人口の増加という観点においては、本事業の効果が十分に発現しなかったと考える。</p>
事業の今後について	引き続き事業に取り組み、中心市街地の賑わいを創出するとともに、来街者の再来訪を促す。

④. O I T A サイクルフェスティバル開催事業（O I T A サイクルフェス実行委員会、大分市）

事業実施期間	平成 26 年度～【実施中】
事業概要	大分いこいの道周辺道路や大分スポーツ公園周辺道路を活用した国際自転車競技連合（UCI）公認の自転車競技大会を開催する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和 2 年～4 年度）
事業目標値・最新値及び達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業目標値 県外からの交流人口の増加 96,317 人（内数）</li> <li>・最新値（積算根拠による推計値） 県外からの交流人口の増加 80,209 人（内数）</li> </ul>
達成した（出来なかった）理由	令和 4 年度は、新型コロナウイルス感染症拡大前と同様のかたちでイベントを実施したことにより、来場者数が約 27,000 人となり、令和 3 年度より回復したものの、感染拡大前の来場者数には届かず、県境を越えた移動は未だ完全に感染拡大以前の状況に戻っていないことから、目標達成には至らなかったと分析される。
計画終了後の状況及び事業効果	<p>令和 4 年度は、大分いこいの道広場において、「O I T A サイクルフェス!!!2022」として、その周辺道路を活用した自転車レースを開催し、「お部屋ラボ 祝祭の広場」にてライブビューイングを実施するとともに、ケーブルテレビや YouTube にてライブ中継を実施した。</p> <p>計画期間中において、人流の増加には寄与したが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、令和 2 年度以降は県外からの来</p>

	街者の増加を図ることは難しく、県外からの交流人口の増加という観点においては、本事業の効果が十分に発現しなかったと考える。
事業の今後について	引き続き事業に取り組み、中心市街地の賑わいを創出するとともに、来街者の再来訪を促す。

⑤. まちなかアートフルロード推進事業（大分市）

事業実施期間	平成 26 年度～令和 2 年度【済】
事業概要	中心市街地から市美術館までのエリアにおけるアート作品を楽しむ機会を提供し、回遊性を創出する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業目標値 県外からの交流人口の増加 96,317 人（内数）</li> <li>・最新値（積算根拠による推計値） 県外からの交流人口の増加 80,209 人（内数）</li> </ul>
達成した（出来なかった）理由	令和 2 年度に本事業は完了したが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響の長期化により、県境を越えた移動の自粛が続いたため、県外からの交流人口の増加には繋がらなかったと分析される。
計画終了後の状況及び事業効果	令和 2 年度に本事業は完了したが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響の長期化により、県境を越えた移動の自粛が続いたため、県外からの交流人口の増加という観点においては、本事業の効果が十分に発現しなかったと考える。
事業の今後について	本事業は完了した。

⑥. 国際スポーツ誘致推進事業（大分市）

事業実施期間	平成 27 年度～令和 3 年度【済】
事業概要	ラグビーワールドカップ 2019 ™ 日本大会及び東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会に向け、外国人観光客受入環境の整備、参加国・地域等のキャンプの誘致を行う。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業目標値 県外からの交流人口の増加 27,379 人（内数）</li> <li>・最新値（積算根拠による推計値） 県外からの交流人口の増加 23,676 人（内数）</li> </ul>
達成した（出来なかった）理由	令和元年度には、「ラグビーワールドカップ 2019 ™ 日本大会」におけるキャンプの誘致を進め、県外からの交流人口の増加に寄与したものの、令和 3 年度に延期となった東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の聖火リレーや聖火フェスティバル、各国の事前キャンプを行った際には、選手や大会関係者は来訪したが、新型コロナウイルス感染症の影響により、県境を越えた移動の自粛が続いたことから、令和 2 年度以降において、県外からの交流人口の増加に大きくは繋がらなかったと分析される。
計画終了後の状況及び事業効果	<p>本事業は、令和 2 年度以降、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、県をまたぐ移動の自粛が続いたため、県外からの交流人口の増加に大きくは繋がっていない。</p> <p>県外からの交流人口の増加という観点においては、本事業の効果は、当初の期待通りには発現しなかったと考える。</p>
事業の今後について	本事業は完了した。

⑦. 大分市中心市街地祝祭広場整備事業（大分市）【再掲】

事業実施期間	平成 29 年度～令和元年度【済】
事業概要	大分駅北側に位置する旧大分パルコ跡地を「祝祭の広場」として整備する。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（大分市中心市街地地区））（国土交通省）（平成 30 年～令和元年度）
事業目標値・最新値及び達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業目標値 県外からの交流人口の増加 27,379 人（内数）</li> <li>・最新値（積算根拠による推計値） 県外からの交流人口の増加 23,676 人（内数）</li> </ul>
達成した（出来なかった）理由	<p>令和元年 9 月に事業は完了した。</p> <p>広場前の調査地点である「大分銀行大分駅前支店前横断歩道」では、令和 3 年度に比べ歩行者通行量が増加したことから、広場で実施したイベント等により、まちなか全体への回遊性を生んでいると考えるものの、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、県境を越えた移動の自粛が続いたことから、県外からの交流人口の増加の観点では、目標値の達成には繋がらなかったと分析される。</p>
計画終了後の状況及び事業効果	<p>中心市街地の活性化に寄与する多様なイベント、パフォーマンス等が開催され、多くの人々で賑わう「集い」の場、快適な滞留空間、休憩空間を用意し、人々に日常的な「憩いの場」、祭礼や式典、公式行事等の開催により、特別な祝祭の場所を演出し、人々の記憶に残る「祝い」の場の 3 つの場面を体感できる場となっている。</p> <p>本事業は歩行者通行量の増加に寄与しているものの、新型コロナウイルス感染症拡大の影響から、県外からの交流人口の増加という観点においては、当初の期待通りの事業効果は発現しなかったと考える。</p>
事業の今後について	本事業は完了したが、今後は「祝祭の広場利活用推進事業」により、利用促進のためのさらなる取組を進めていく。

⑧. 大分市 M I C E 開催促進事業（大分市）

事業実施期間	平成 27 年度～【実施中】
事業概要	市内で開催される M I C E 主催者に対して、予算の範囲内で補助金を交付することなどにより、M I C E の開催を促進する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業目標値 本事業における県外からの交流人口の増加 4,000 人</li> <li>・最新値 本事業における県外からの交流人口の増加 2,041 人 【目標未達成】</li> </ul>
達成した（出来なかった）理由	<p>令和 4 年度の交付実績は 8 件であり、宿泊者数は 2,041 人となった。令和 3 年度と比較し交付実績は 2 倍となっており、交流人口の増加に繋がっているものの、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、県境を越えた移動の自粛が続いたことから、県外からの交流人口の増加の観点では、目標値には届かなかったと分析される。</p>
計画終了後の状況及び事業効果	<p>令和 5 年度は 15 件が交付申請する予定である。</p> <p>本事業は交流人口の増加に寄与しているものの、新型コロナウイルス感染症拡大の影響から、当初の期待通りの事業効果には発現しなかったと考える。</p>

事業の今後について	引き続き事業に取り組み、中心市街地の賑わいを創出するとともに、来街者の再来訪を促す。
-----------	--

## 2) 県内市外からの交流人口の増加

### ①. 自治体情報発信拠点づくり促進事業（大分市）

事業実施期間	平成 29 年度～【実施中】
事業概要	希望する県内自治体の方が中心市街地において特産品や農林水産物の販売、観光・イベント等の PR ができる自治体情報発信拠点の設置等を行う。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業目標値 県内市外からの交流人口の増加 48,000 人（内数）</li> <li>・最新値（積算根拠による推計値） 県内市外からの交流人口の増加 9,600 人（内数）</li> </ul>
達成した（出来なかった）理由	令和 4 年度は 4 自治体が一時設置し、常設した自治体はなかった。特産品や農林水産物の販売、観光・イベント等の PR の実施回数、情報発信拠点への年間来訪者数は 3,577 名となり、令和 3 年度より大幅に増加し、人流の増加に寄与したものの、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、県境を越えた移動の自粛が続いたことから、県外からの交流人口の増加の観点では、目標値の達成には繋がらなかったと分析される。
計画終了後の状況及び事業効果	<p>拠点を常設する自治体はないが、一時設置する自治体の数は増えるとともに、来場者数も月を追うごとに増えており、SNS を活用した本事業の発信等が功を奏している。</p> <p>本事業は交流人口の増加に寄与しているものの、新型コロナウイルス感染症拡大の影響から、県外からの交流人口の増加という観点においては、当初の期待通りの事業効果は発現しなかったと考える。</p>
事業の今後について	引き続き、事業に取り組み、県内自治体に情報発信拠点の設置等と呼びかけて交流人口の増加を図る。

### ②. 大分市中心市街地プロモーション事業（大分市）

事業実施期間	平成 28 年度～【実施中】
事業概要	中心市街地の PR 映像や各種メディア等により、その魅力を市内外問わず、より広域に発信することで中心市街地におけるイベント等の実施を促進する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業目標値 県内市外からの交流人口の増加 48,000 人（内数）</li> <li>・最新値（積算根拠による推計値） 県内市外からの交流人口の増加 9,600 人（内数）</li> </ul>
達成した（出来なかった）理由	<p>令和 4 年度は大分市中央通り歩行者天国等イベント時の自治体 PR ブース設置や FM ラジオでのイベント告知などを行うとともに、主要文化交流施設等を掲載した「おおいたまちなか map」の作成を行い、他の自治体にイベント等の実施を促進することができた。</p> <p>本事業は交流人口の増加にも寄与しているものの、新型コロナウ</p>

	<p>イルス感染症拡大の影響により、県境を越えた移動の自粛が続いたことから、県外からの交流人口の増加という観点においては、目標値の達成には繋がらなかったと分析される。</p>
<p>計画終了後の状況及び事業効果</p>	<p>イベント時の自治体 PR ブース設置では、年間 11 自治体が中心市街地で行われるイベントに参加し、FM ラジオでのイベント告知などを継続的に行っており、他の自治体にイベント等の実施を促進することができている。</p> <p>本事業は交流人口の増加に寄与しているものの、新型コロナウイルス感染症拡大の影響から、県外からの交流人口の増加という観点においては、当初の期待通りの事業効果は発現しなかったと考える。</p>
<p>事業の今後について</p>	<p>引き続き、事業に取り組み、各種メディア等により、その魅力を市内外問わず、より広域に発信することで中心市街地におけるイベント等の実施を促進する。</p>

### ③. 広域公共施設相互利用促進事業（大分市）

<p>事業実施期間</p>	<p>平成 28 年度～【実施中】</p>
<p>事業概要</p>	<p>大分都市広域圏内のスポーツ・文化施設等が相互利用できるよう、新たな公共施設案内・予約システムを導入することにより、市施設の稼働率向上はもとより、交流人口の増加を図る。</p>
<p>国の支援措置名及び支援期間</p>	<p>国の支援措置なし</p>
<p>事業目標値・最新値及び達成状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事業目標値 県内市外からの交流人口の増加 48,000 人（内数）</li> <li>・ 最新値（積算根拠による推計値） 県内市外からの交流人口の増加 9,600 人（内数）</li> </ul>
<p>達成した（出来なかった）理由</p>	<p>平成 31 年 4 月にスポーツ（体育）施設の予約を開始し、令和元年 9 月に文化施設の予約を開始した。</p> <p>案内・予約システムの導入に関する相談がある場合に、随時連絡調整を行っている。</p> <p>本事業は交流人口の増加に寄与しているものの、新型コロナウイルス感染症拡大の影響から、県外からの交流人口の増加の観点においては、当初の期待通りの事業効果は発現しなかったと分析される。</p>
<p>計画終了後の状況及び事業効果</p>	<p>本事業により、市施設の稼働率が向上し、交流人口の増加が図られている。</p> <p>本事業は交流人口の増加には寄与しているものの、新型コロナウイルス感染症拡大の影響から、県外からの交流人口の増加という観点においては、当初の期待通りの事業効果は発現しなかったと考える。</p>
<p>事業の今後について</p>	<p>引き続き、事業に取り組み、スポーツ（体育施設）、文化施設を管理する各市町の関係各課から案内・予約システムの導入に関する相談がある場合、随時連絡調整を行っていく。</p>

### 3) 海外などからの交流人口の増加

#### ①. 国際スポーツ誘致推進事業（大分市）【再掲】

事業実施期間	平成 27 年度～【実施中】
事業概要	ラグビーワールドカップ 2019 ™ 日本大会及び東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会に向け、外国人観光客受入環境の整備、参加国・地域等のキャンプの誘致を行う。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業目標値 海外などからの交流人口の増加 7,505 人（内数）</li> <li>・最新値（積算根拠による推計値） 海外などからの交流人口の増加 6,428 人（内数）</li> </ul>
達成した（出来なかった）理由	令和元年度には、「ラグビーワールドカップ 2019 ™ 日本大会」におけるキャンプの誘致を進め、県外からの交流人口の増加に寄与したものの、令和3年度に延期となった東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の聖火リレーや聖火フェスティバル、各国の事前キャンプを行った際には、選手や大会関係者は来訪したが、新型コロナウイルス感染症の影響により、海外との移動の自粛が続いたことから、令和2年度以降において、海外からの交流人口の増加に大きくは繋がらなかったと分析される。
計画終了後の状況及び事業効果	<p>当事業は、令和2年度以降、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、海外との移動の自粛が続いたため、海外からの交流人口の増加に大きくは繋がっていない。</p> <p>海外からの交流人口の増加の観点においては、当初の期待通りに本事業の効果は発現しなかったと考える。</p>
事業の今後について	本事業は完了した。

#### ②. 大分市中心市街地祝祭広場整備事業（大分市）【再掲】

事業実施期間	平成 29 年度～令和元年度【済】
事業概要	大分駅北側に位置する旧大分パルコ跡地を「祝祭の広場」として整備する。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（大分市中心市街地地区））（国土交通省）（平成30年～令和元年度）
事業目標値・最新値及び達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業目標値 海外などからの交流人口の増加 7,505 人（内数）</li> <li>・最新値（積算根拠による推計値） 海外などからの交流人口の増加 6,428 人（内数）</li> </ul>
達成した（出来なかった）理由	令和元年9月に事業は完了した。 広場前の調査地点である「大分銀行大分駅前支店前横断歩道」では、令和3年度に比べ歩行者通行量が増加したことから、広場で実施したイベント等により、まちなか全体への回遊性を生んでいるものの、新型コロナウイルス感染症の影響により、海外との移動の自粛が続いたことから、海外からの交流人口の増加に大きくは繋がらなかったと分析される。
計画終了後の状況及び事業効果	中心市街地の活性化に寄与する多様なイベント、パフォーマンス等が開催され、多くの人々で賑わう「集い」の場、快適な滞留空間、休憩空間を用意し、人々に日常的な「憩いの場」、祭礼や式典、公式行事等の開催により、特別な祝祭の場所を演出し、人々の記憶に

	残る「祝い」の場の3つの場面を体感できる場となっている。 本事業は人流の増加に寄与しているが、海外からの交流人口の増加という観点においては、当初の期待通りに本事業の効果は発現しなかったと考える。
事業の今後について	本事業は完了したが、今後は「祝祭の広場利活用推進事業」により、利用促進のためのさらなる取組を進めていく。

③. O I T A サイクルフェスティバル開催事業（O I T A サイクルフェス実行委員会、大分市）【再掲】

事業実施期間	平成 26 年度～【実施中】
事業概要	大分いこいの道周辺道路や大分スポーツ公園周辺道路を活用した国際自転車競技連合（UCI）公認の自転車競技大会を開催する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和 2 年～4 年度）
事業目標値・最新値及び達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業目標値 海外などからの交流人口の増加 7,505 人（内数）</li> <li>・最新値（積算根拠による推計値） 海外などからの交流人口の増加 6,428 人（内数）</li> </ul>
達成した（出来なかった）理由	令和 4 年度は、新型コロナウイルス感染症拡大前と同様のかたちでイベントを実施したことにより、来場者数が約 27,000 人となり、令和 3 年度より回復したものの、感染拡大前の来場者数には届かず、新型コロナウイルス感染症の影響により、海外との移動の自粛が続いたことから、海外からの交流人口の増加に繋がらなかったと分析される。
計画終了後の状況及び事業効果	<p>令和 4 年度は、大分いこいの道広場において、「O I T A サイクルフェス!!!2022」として、その周辺道路を活用した自転車レースを開催し、「お部屋ラボ 祝祭の広場」にてライブビューイングを実施するとともに、ケーブルテレビや YouTube にてライブ中継を実施した。</p> <p>計画期間中において、人流の増加には寄与したが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、海外からの交流人口の増加という観点においては、当初の期待通りに本事業の効果は発現しなかったと考える。</p>
事業の今後について	引き続き、事業に取り組み、中心市街地の賑わいを創出するとともに、来街者の再来訪を促す。

④. 大分市無料公衆無線 LAN サービス事業（大分市）

事業実施期間	平成 26 年度～【実施中】
事業概要	無料の公衆無線 LAN サービスを提供し、インターネットが利用できる環境を整備することで、快適な滞在をサポートするとともに、利用者が SNS 等で本市の魅力を発信することでさらなる誘客にもつなげる。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業目標値 海外などからの交流人口の増加 7,505 人（内数）</li> <li>・最新値（積算根拠による推計値） 海外などからの交流人口の増加 6,428 人（内数）</li> </ul>

達成した(出来なかった)理由	中心市街地における利用者の利便性向上のため、計画期間中には祝祭の広場及びその他中心市街地を含む計 5 拠点の追加整備等を行い、サービス提供エリアを拡充するとともに、今後の整備拡充について検討を行ったものの、新型コロナウイルス感染症の影響が長期化する中、外国人観光客の来訪が未だ限定的であることから、海外からの交流人口の増加にはつながらなかったと分析される。
計画終了後の状況及び事業効果	現在、観光拠点、防災拠点の計 50 拠点でサービスを提供しており、多言語化対応を行っている。 本事業は交流人口の増加に寄与しているが、海外からの交流人口の増加という観点においては、当初の期待通りに本事業の効果は発現しなかったと考える。
事業の今後について	引き続き、事業に取り組み、インターネットが利用できる環境を整備することで、快適な滞在をサポートするとともに、利用者が SNS 等で本市の魅力を発信することでさらなる誘客にもつなげる。

⑤. 大分市中心部一括免税カウンター運営事業（大分市中心部商店街振興組合連合会）

事業実施期間	平成 28 年度～【実施中】
事業概要	インバウンドへの消費拡大を促進するため、大分市中心部の商店街振興組合と㈱トキハ本店が協力して「大分市中心部一括免税店カウンター」を設置・運営する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業目標値 海外などからの交流人口の増加 7,505 人（内数）</li> <li>・最新値（積算根拠による推計値） 海外などからの交流人口の増加 6,428 人（内数）</li> </ul>
達成した(出来なかった)理由	令和 4 年度の実績は 5 件と令和 3 年度より増加したものの、新型コロナウイルス感染症拡大の影響が長期化する中、外国人観光客の来訪が未だ限定的であることから、海外からの交流人口の増加に大きくはつながらなかったと分析される。
計画終了後の状況及び事業効果	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、外国人観光客の来訪が未だ限定的であることから、実績は伸び悩んでいる。 海外からの交流人口の増加という観点においては、当初の期待通りに本事業の効果は発現しなかったと考える。
事業の今後について	ウィズコロナ、アフターコロナを見据えて引き続き、事業に取り組み、インバウンドへの消費拡大を促進していく。

⑥. 大分市免税店 P R 支援事業（大分市）

事業実施期間	平成 28 年度～【実施中】
事業概要	スマートフォンなどで免税店が気軽に検索できる免税店 P R サイトを運営する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業目標値 海外などからの交流人口の増加 7,505 人（内数）</li> <li>・最新値（積算根拠による推計値） 海外などからの交流人口の増加 6,428 人（内数）</li> </ul>
達成した(出来なかった)理由	令和 3 年度の閲覧者数は 1,588 人で、令和 2 年度の 753 人から増加したものの、新型コロナウイルス感染症の影響が長期化する

	中、外国人観光客の来訪が未だ限定的であることから、海外からの交流人口の増加にはつながらなかったと分析される。
計画終了後の状況及び事業効果	外国人観光客の来訪は未だ限定的であるが、サイトの閲覧者数は増加しているため、ウィズコロナ、アフターコロナを見据え、海外への往来を検討し、サイトを閲覧する人が増加していると考え。海外からの交流人口の増加という観点においては、当初の期待通りに本事業の効果は発現しなかったと考える。
事業の今後について	ウィズコロナ、アフターコロナを見据えて引き続き、事業に取り組む。

**●今後の対策**

今後は、従来のイベント事業の継続や、商業機能の回復や回遊性の向上に向けた施策も含め、まちづくり関係者等と連携しつつ、交流機会の拡大を図る。